

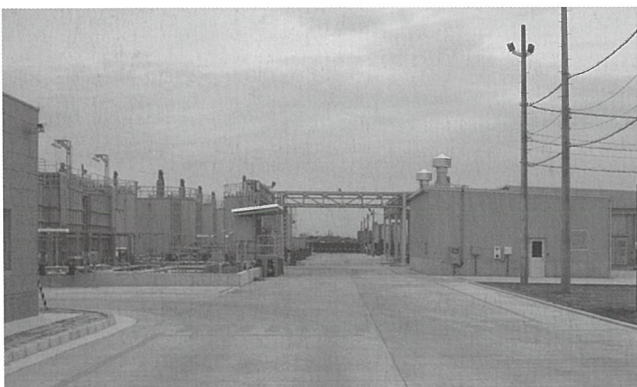
# 企業訪問 資源循環レポート

(株)ダイセキ

## 資源循環型社会の

## 構築を目指して

(株)ダイセキ



廃油処理・リサイクル施設

株式会社ダイセキ

■代表者／柱 秀貴

■本 社／名古屋市港区船見町1番地86

TEL：(052)611-6322 FAX：(052)611-0160

## 限られた資源を活かして使う 進化を続けるダイセキのソリューション

「環境と経営の両立。地球環境保全への取り組みが今日の企業経営の重要な課題となっています。この環境の世紀と言われる21世紀に課せられた大きなテーマに、ダイセキは真剣に取り組んでいます。」と語るのは、今年3月1日に代表取締役社長に就任された柱 秀貴氏です。お忙しい合間にご挨拶をさせていただき、さっそく専務取締役事業統括副本部長 福島満夫氏に誘導されて、廃油処理・リサイクル施設に移動し説明を伺いました。

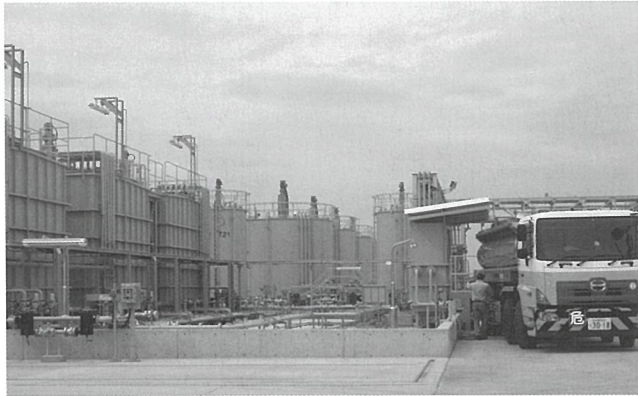


福島専務取締役の案内で廃油処理・リサイクル施設の説明を受ける。

「この施設は、設備投資の一環として移転拡張した施設です。事業自体は継続して廃油処理・リサイクルです。敷地は7,000坪弱あり、処理能力は600m<sup>3</sup>/日です。

常駐スタッフは6～7名で、タンクレベルなどのモニタリングは事務所棟で一括管理をしていますが、石油コンビナート等災害防止法により24時間スタッフが監視しています。

この施設をはじめ、当社は収集された廃棄物の約9割をリサイクルして、廃棄物の排出事業者と利用者をつないでいます。一例として、排出事業者からの再資源化の方法がわからないといった問題を解決したり、利用者（メーカー）のニーズに応えるためのリサイクル製品の提供等の共同開発も行っています。



幅広い原料からリサイクル燃料を製造するリサイクル燃料製造施設

つまり廃棄物を資源と考え、多様な技術を組み合わせ、可能な限り再資源化をしているのです。したがって、全事業所で「焼却炉」は一切持っていません。そして施設周辺への環境にも配慮し、特に海への環境保護には非常に気を配っています。

この施設は、まだ土地に余裕があり土地の有効利用も現在検討しているところです。」と日々進歩を遂げるダイセキの未来についてビジョンを語られました。

廃油処理・リサイクル方法については ①劣化した油を引き取り、劣化成分や混入物を除去して返却する潤滑油を再生 ②廃油に含まれる水分や混入物を除去して重油（製品）を製造する再生重油化 ③潤滑油の再生、再生重油化が困難な廃油（水、泥分含む。）を混合調整して、セメント会社などに納入する石炭代替燃料に加工する補助燃料化 の3つのフローに分けて行っています。

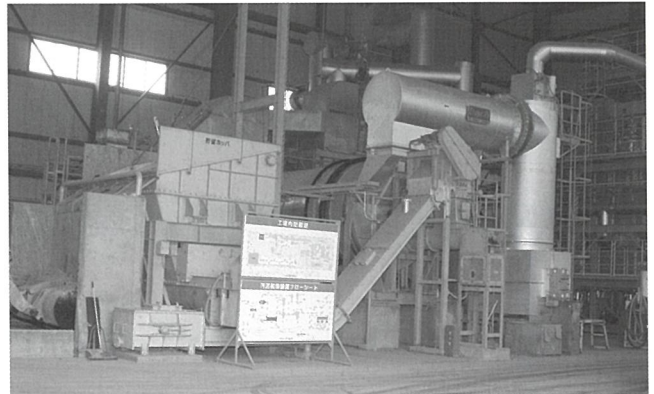
また、ダイセキの事業について福島専務は「カロリー（熱量）のあるものは有効利用するという信念のもと事業に取り組んでいます。そのためには分析と研究が非常に重要であると共に、産業廃棄物の処理・リサイクルには高度な技術力も不可欠です。

当社が取り扱う産業廃棄物は、廃油・廃酸・廃アルカリ・汚泥とその組成は常に異なります。また、時代に応じた環境保全のニーズに応えるため、産業廃棄物の新しいリサイクル技術の開発、



廃油処理・リサイクル施設

規制強化に対応した処理方法の開発や廃棄物の受入チェック、内容性状の確認・処理・リサイクルの工程管理、リサイクル製品の品質管理も行っています。」と話されました。



汚泥を脱水、混練、混合など中間処理による減量化、リサイクルする汚泥乾燥施設



さらにダイセキの理念や特徴を伺いながら、汚泥処理・リサイクル施設に移動しましたが、見学させていただいた施設や機器及び順路等が、非常にクリーンで手入れの行き届いた印象を受けました。

「この施設では、受け入れ以前に採取したサンプルを分析して、脱水、乾燥、混練（汚泥を薬剤と混合して水分や成分を調整し金属の溶出を防ぐ。）など最も効率的な処理をすることで、さまざまな性質の汚泥に対応しています。処理後の汚泥は、可能な限りセメント原料や補助燃料にリサイクルして、ゼロ・エミッションの推進に貢献しています。また、脱臭・乾燥処理の機械は非常に大きく処理能力の高いものを設置して、周辺的环境に影響を及ぼさないよう、この汚泥処理・リサイクル施設では脱臭にとっても気を使っています。

回収した廃油・廃液などを安全・確実に処理し、クリーン&リサイクルがダイセキスタイルです。」と笑顔で福島氏は締められました。